



TOKYO PACK 2026 テクニカルセミナー講演のご案内

東京ビッグサイトで2026年10月14(水)より16日(金)までにおいて開催する「TOKYO PACK 2026」において
日本包装専士会 会員が「テクニカルセミナー」の講師として講演いたします。
皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2026年10月14日(水) 10:15~11:00 東1ホールD会場
【テーマ】新常識 プラスチック再生材利用を簡単に確実にできる「マスバランスアプローチ」
について

講師：フタムラ化学株式会社 中部統括 開発グループ グループリーダー 花市 岳氏



<申込QR>

今年4月に改正された資源法では年間1万トン以上のプラスチック製容器包装を製造する事業者に再生材利用の計画と定期報告が義務付けられた。第1回目の計画書提出が来年の9月末ということもあり、再生材確保が本格化している段階である。そんな中、再生材利用率のカウントにマスバランス方式が認められることとなった。そこで今回は再生材として認められるものに何があるのかを整理して、誤解されがちなマスバランス方式のメリットデメリットを比較して説明していきたい。

2024年10月14日(水) 15:40~16:25 東1ホールD会場
【テーマ】防湿包装設計の基礎

講師：日本化工機材株式会社 技術部 化成品技術グループ 高橋 裕美氏

防湿包装を科学的根拠に基づいて設計するための基礎を解説します。飽和水蒸気量と結露のメカニズムを踏まえ、なぜ湿度管理が必要なのかを整理した上で、乾燥剤の分類と吸湿特性、規格に準拠した使用量計算と安全率の考え方を説明します。また、「とりあえず入れておけば安心」になりがちな乾燥剤の選定について、包材の種類による透過速度の違いが実務設計に与える影響にも触れ、現場で活かせる実践的な設計ポイントを解説します。

ご好評につき満席となりました。

2026年10月15日(木) 11:20~12:05 東1ホールD会場
【テーマ】「パッケージにおいて紙素材が貢献できること(とは?)」

講師：日本製紙株式会社 紙パック営業本部 紙パックグローバル営業統括部 野田 貴治氏

国内外では容器包装やその廃棄物に関する新たな規制が発効されつつある一方で、その規制に対応するように新たな技術開発や仕組みづくりも進んできており、これまでの「常識」が通用しなくなってきております。パッケージを取り巻く状況や期待される役割が急速に変化する中で、紙素材が貢献できることを考察しつつ、直近の取り組みについて紹介します。

ご好評につき満席となりました。

2024年10月16日(金) 13:30~14:15 東1ホールD会場
【テーマ】「流通レベル(落下試験高さ)の推定方法について」

講師：石塚包装設計・開発事務所 石塚 義夫氏



<申込QR>

製品貨物の保護適性を評価するためには、流通のレベル(落下試験高さ)を適切に把握する必要があります。

流通のレベル(落下試験高さ)を把握する方法としては

- (1)対象流通ルートでのGメーターを組み込んだ、製品貨物の輸送試験
 - (2)対象流通ルートにおける荷役回数(積替え回数)の確認、把握
 - (3)対象製品貨物の落下に対する保護性レベルの確認
 - (4)対象流通ルートにおける製品貨物の落下によるトラブル事例の確認
- 等がありますが、各方法、及びその短所、長所について概説します。

お申込みはQRコードまたはTOKYO PACK 2026 ホームページ (<https://www.tokyo-pack.jp/event/13994>) よりお願いいたします。